

がんサポートセンター ご案内

がん相談支援センター	がんに関することなら何でも、当院を受診していなくてもご相談いただけます	
	受付時間 月～金曜日 / 9時～16時30分	担当 坂口・南澤・溝口・河村・池田
からだの図書館	インターネット検索や資料で病気のことを調べたり、待ち時間を過ごしたりしていただけます。	
	開館日・時間 火～金曜日 / 9時30分～17時	
サロン陽だまり	がん患者さんとそのご家族やご遺族が自由に交流できる場です	
	開館日・時間 月曜日 / 10時～15時	
緩和ケア外来 紹介予約制	痛みや吐き気、だるさ、夜眠れない、落ち着かないなど、専門的な医師の診察を受けたい方	
	診療日・受付時間 月・木曜日 / 10時～11時30分 火曜日 / 13時30分～16時 水・金曜日 / 9時～11時30分	担当 市川
疼痛緩和外来 紹介予約制	がんによる疼痛のある方	
	診療日・受付時間 月・水・金曜日 / 10時～12時	担当 赤嶺
緩和ケア看護外来 予約制	今後のことが不安・落ち込んで誰かに気持ちを話したい、痛みやだるさ・吐き気などつらい症状がある、など、相談したい方	
	受付時間 月～金曜日 / 9時～13時、14時30分～16時30分	担当 池田・溝口・南澤

※いずれも平日（当院休診日を除く）のみです。

がん診療連携課 がん診療連携課長 野口 和子

平成27年4月に新設の課です。がん相談支援センター及び緩和ケアチームの主たるメンバーである看護師による「がん相談支援係」と、地域がん診療連携拠点病院事務局・がん登録を担当する事務職員による「がん診療連携係」で構成されています。

がん患者さんやご家族などへの直接的な支援はもちろんのこと、がん診療に携わる医療者への支援も間接的にはがん患者さんへの支援につながると考え、日々の業務を行っています。

「がん診療」に関しては、当課が長野赤十字病院の窓口と思っていますので、何かありましたら、いつでもご連絡いただければと思います。

Information

第109回 がん診療研修会

対象者：医療従事者
開催日時：平成29年2月28日（火）
18:30～20:00
内容：非小細胞肺癌治療薬の有害事象対策
講師：龍ヶ崎済生会病院呼吸器内科部長 宮崎邦彦先生、他
医師・看護師、それぞれの立場からご講演いただきます
※参加ご希望の方は、右記事務局までご連絡ください



発行：長野赤十字病院
がん治療センター・がんサポートセンター
事務局 がん診療連携課
(地域がん診療連携拠点病院事務局)

TEL 026-226-4131 FAX 026-226-6114
E-mail ganshinryo@nagano-med.jrc.or.jp
WEB http://www.nagano-med.jrc.or.jp



長野赤十字病院

発行 長野赤十字病院 がん診療連携課

がん治療センターだより 第3号

2016.02.24

当院は、地域医療支援病院・地域がん診療連携拠点病院として、地域の医療機関と連携をとりながら、診療体制をより良いものにするため日々努力しています。『がん治療センターだより』は、がん診療に関する情報を発信し、当院をより身近に感じていただくため隔月で発行します。さて、第3号は、がん患者さんやご家族を支える『がんサポートセンター』です。

がんサポートセンターをご利用ください 腫瘍内科部長（緩和ケアチームリーダー） 市川 直明

国は、質の高いがん医療を提供する拠点となるよう「がん診療連携拠点病院」として全国の代表的な病院約400箇所を指定していますが、そのうちの 하나가、当院です。

当院は、がん患者さんをチームでサポートします。その一環として、平成27年10月、外来部門の2階に『がんサポートセンター』を開設しました。

『がんサポートセンター』は、がん相談支援、緩和ケアや情報収集の場の提供を目的としています。がん相談支援センター、緩和ケア外来、疼痛緩和外来、緩和ケア看護外来、からだの図書館、サロン陽だまりを集約しています。『がん』と診断された患者さんやご家族のつらさや悩みに寄り添える場を目指しています。当院を受診していない方にもご利用いただけますので、ぜひ、お気軽にご利用ください。



後列左から 村山（受付事務）、北島・吉田・安倍・野口（がん診療連携課）
前列左から 池田看護師1）、坂口看護師2）、市川緩和ケア外来医師、赤嶺疼痛緩和外来医師、南澤看護師1）、2）、溝口看護師2）、3）
1）緩和ケア認定看護師 2）がん相談員 3）がん性疼痛看護認定看護師

がん相談支援センター 看護師長 坂口 定子

がん相談支援センターは、全国のすべてのがん診療連携拠点病院に設置されています。かつては、がん治療において得られる情報や治療が病院ごとに異なっており、手術以外の治療法が提示されないなどの問題がありました。そこで、平成18年にがん治療の均てん化を目指し「がん対策基本法」が成立した後、当院では平成19年から、がん拠点病院としての相談対応が実施されています。「がん相談支援センター」という名称は平成26年1月から全国統一されましたが、歴史が浅いこともあり十分に周知されていないのが現状です。

具体的な相談内容は、がんの治療・検査・身体症状・気持ちのつらさ、医師とのコミュニケーションやご家族の不安、医療費・生活の不安・社会保障制度、在宅介護・ホスピス、セカンドオピニオンなど、がんに関することなら何でも相談していただけます。「全てのがん患者とご家族が可能な限り質の高い生活を送れるよう、がんを診断されたときからの緩和ケアの提供と共に、診断・治療・在宅医療等が様々な場面で切れ目無く実施される」ことを目指し活動しています。相談は無料で、当院にかかっているなくても、どなたでもご相談頂けます。

他の活動としては、医療関係者と患者会等が協働で運営するサポートグループ活動や患者サロンの定期的開催の活動支援、がん相談支援センターの広報と広報誌（陽だまりスケッチ）の作成、病気と仕事の両立のための社会保険労務士による就労相談会開催（月1回）、がん地域連携パスの対応、がん相談支援センター案内カードの作成・管理、地域住民の方を対象としたミニがん教室の開催等があります。

多くの方にがん相談支援センターを知っていただき、ご利用いただければと思います。

サロン陽だまり

患者さんやご家族の支え合いの場として「サロン陽だまり」を毎週月曜日に開催しております。サロンは、がん患者さんとご家族等によるボランティアスタッフ（お世話役さん）と看護師が運営しています。

サロンに参加された方からは、「悩んでいるのは自分一人ではない」「自分に自信を取り戻すきっかけとなった」等、体験を語り合う事で気持ちが整理出来たという感想が聞かれています。また、ボランティアスタッフの方にとっては「自分の体験が多くの患者さんを支援する力になった」ことが実感でき、ご自身の療養生活の糧にもなっています。

参加は自由ですので、お気軽にお出かけ下さい。

また、抗がん剤治療で脱毛している方の為に肌に優しいタオル帽子を作り、無料で差し上げています。

からだの図書館

がんサポートセンター内にありますが、がんだけでなくいろいろな病気のことを調べたり、待ち時間に本を読んだりしていただける図書館です。患者さんをはじめ、ご家族や地域の方など、どなたでもご利用いただけます。広く明るいスペースです。（資料の複写・印刷については有料です。）

◆所蔵・設備 医療関係の書籍やパンフレット、一般書籍、児童文学、絵本、マンガなど
インターネット接続のパソコン（病気検索用）

スタッフ
募集中

タオルの寄付
お願いします



緩和ケア外来・緩和ケア看護外来 市川 直明



緩和ケア外来では、がんを診断された患者さんを対象に、主診療科や近隣の医療機関、精神科、麻酔科などと連携をとりながら様々な苦痛やつらさの緩和に取り組んでいます。化学療法、放射線療法など治療と平行して受けることができます。

また、緩和ケア認定看護師による「緩和ケア看護外来」では、心理社会的な問題に関して、家族の方も含めたカウンセリング、社会的資源活用のご提案などを通じて解決をお手伝いいたします。

◆緩和ケア外来の受診手順

主診療科担当医やかかりつけ医からの依頼を受けて、患者さんが希望される場合に受診していただけます。

①当院にがんで通院中の方

主診療科担当医に緩和ケア外来受診希望の旨をお伝えください。主診療科担当医から手続きが行われます。

②当院に受診されていない方

現在受診している医療機関にてご相談ください。受診している医療機関から当院地域医療連携室を通して予約後、緩和ケア外来を受診いただけます。

緩和ケアチーム 緩和ケア認定看護師 南澤 晴海

緩和ケアは、皆様もご存知の通り、治癒を目的とした積極的治療ができなくなってから導入するものではなく、病気の時期を問わず、つらさを和らげ、その人らしい生活を送れるようにサポートすることが目的です。がんを診断された時から、身体症状による苦痛、気持ちのカウンセリングなど生活の質を維持できるように、手術、化学療法、放射線療法などの治療と併行してサポートを行っています。

緩和ケアチームは、手術・化学療法・放射線療法での入院中や、肺炎などの感染症や苦痛緩和のための入院中の、体やこころの様々なつらさを和らげるための専門チームです。患者さんだけでなく、ご家族のサポートも行っています。現在、当院の緩和ケアチームは、腫瘍内科医師（緩和ケアチームリーダー）1名、精神科医師1名、緩和ケア薬物療法認定薬剤師1名、緩和ケア認定看護師2名、がん性疼痛看護認定看護師1名を主なメンバーとして活動しています。がんの骨転移、神経障害性疼痛などで痛みが強い患者さんには、麻酔科医師と協力して診療に当たっています。週に1回、主治医や病棟スタッフ、リハビリ、栄養士等と多職種カンファレンスを行っています。また、在宅医療や近隣の緩和ケア病院との連携を図り、患者さんやご家族にとって望ましい支援の実践に努めています。

外来では、認定看護師が面談に同席し、病名の告知や再発による衝撃、気持ちのつらさを和らげ、病気と向き合う力を支えられるように早期からの緩和ケアを提供しています。

疼痛緩和外来 第一麻酔科部副部長 赤嶺 智教

当外来は、がんサポートセンター内に設置されており、主に鎮痛コントロールが不良のがん性疼痛や、手術後の慢性疼痛などを対象にペインクリニック専門医による診療を行っています。治療介入に先立ち、患者さんの原疾患の治療経過や予後までを包括的に捉え、個々の患者さんの多様なニーズを把握することに特に努めています。病期により病状が急激に悪化する患者さんもおられますが、がんサポートセンターの認定看護師を含めた多職種チームによる患者さんの病状評価・情報共有を行うことにより、適切・迅速な対応が可能です。

また、精神科を含めた当院の総合病院としての利点を最大限に生かすため、他科へのコンサルテーションを積極的に行い、集学的な治療を提供しています。

痛みはそれ自体が、死を連想させる恐怖を伴った体験です。患者さんと共に痛みの原因を追求し、共に理解することが得体のしれない恐怖（痛み）から患者さんを救い出す大事な一歩になると信じて、日々の診療に臨んでいます。